

BUPPAN Webinar

2023/02

BUPPAN Webinar 2023年 2月 第1部

OEMのやり過ぎ注意報

目次

1. OEMで得すること損すること
2. 【商品ジャンル別】 OEMはどれくらいがベスト？
3. 実際にアリババ（1688.com）でOEMを進めるコツとは？

OEMで得すること損すること

OEMするきっかけは他社との差別化だと思いが、
得することばかりではなく、損することもあります。
OEMで「得すること」と「損すること」をご紹介します。

OEMで得ること

- ・相乗りを防げる
- ・検索結果で埋もれない
- ・価格設定が自由にできる
- ・機能面、デザイン面において付加価値が生まれる
- ・品質面で安定した商品を作れる
- ・ブランディングができる
- ・場合によっては独占販売ができる

OEMで損すること

- 仕入単価が上がる
- 仕入個数の条件（MOQ）が発生する
- 時間がかかり、キャッシュフローに影響する
- 想定外の故障リスクがある
- 場合によって工場側の保証面で制約が設けられる
- 場合によってイニシャルコストが別途かかる

【商品ジャンル別】 OEMはどれくらいがベスト？

OEMといえど、商品ジャンルによって、できることできないことがあります、できることでもOEMに力を入れすぎると損することが増えてしまったなんてことも少なくありません。

商品ジャンル① 家電

- ・パッケージの変更
- ・ロゴ入れ
- ・説明書の変更
- ・付属品の追加、もしくは変更
- ・本体カラーの変更
- ・本体機能の追加、もしくは変更
- ・認証試験の実施
- ・採用素材や部品の変更
- ・制御アプリの修正、もしくは変更
- ・本体デザインの変更（金型変更）

商品ジャンル② 雑貨

- ・パッケージの変更
- ・ロゴ入れ
- ・説明書の変更
- ・付属品の追加、もしくは変更
- ・本体カラーの変更
- ・採用素材の変更
- ・認証試験の実施
- ・本体デザインの変更（金型変更）

商品ジャンル③ アパレル小物

- ・パッケージの変更
- ・ロゴ入れ、タグ入れ
- ・保証書等の追加
- ・付属品の追加、もしくは変更
- ・本体カラーの変更
- ・採用素材の変更
- ・本体デザインの変更

	イニシャルコスト	追加単価	時間	MOQ条件	備考
パッケージ変更	無料	10~50円	1週間	500個～	素材を変えたり、白黒をカラーに変更すると追加単価が発生する
パッケージ作成	～3万円	～100円	2週間	1000個～	イニシャルコストを取らない場合もある。製品サイズによって追加単価は更に上がる
ロゴ入れ、タグ入れ	～1万円	～20円	1週間	500個～	イニシャルコストを取らない場合もある。ロゴのサイズによって追加単価は更に上がる
説明書変更、保証書追加	無料	～30円	2週間	500個～	紙の素材を変えたり、白黒をカラーに変更すると追加単価が発生する
付属品の追加、変更	～200万円	不明	2週間～6ヶ月	1000個～	付属品が市販品でない場合は金型整形からスタートなので、相当な時間とお金がかかる
本体カラーの変更、カラバリ追加	無料	～30円	2週間	500個～/色	構成パーツの多い製品は、パーツごとにカラー調整が必要となり、追加単価が発生することがある
第三者認証試験の実施	10万円～200万円	無し	1ヶ月～2ヶ月	無し	試験の内容によって費用は変わる。PSE関連は値段が高い
第三者検品の実施	無料	～200円	1週間	無し	検査項目とその項目数、更に抽出検査か全数検査によって単価は変わる
採用素材や部品の変更	～200万円	不明	1ヶ月～6ヶ月	1000個～	部品が市販品でない場合は金型整形からスタートなので、相当な時間とお金がかかる
制御アプリの修正、変更	～100万円	無し	1ヶ月～6ヶ月	1000個～	既存のアプリに日本語を追加するだけなら費用はほとんどかからないが、別デザインに変更するなら100万円近くかかる場合がある。また、バグ修正などの問題もあるため、あまりお勧めはしない。
本体デザインの変更（家電）	～1000万円	不明	6ヶ月～	3000個～	型代と開発費用がかかる。年間数万台販売できる場合を除き、おすすめしない。
本体デザインの変更（雑貨）	～200万円	不明	3ヶ月～	3000個～	型代がかかる。
本体デザインの変更（アパレル）	～50万円	不明	3ヶ月～	300個～	型の必要無いデザイン変更の場合は無料でできる場合もある。

実際にアリババ（1688.com）でOEMを進める コツとは？

OEM商品を作る上でハードルになるのが、工場担当者とのコミュニケーションです。どのようにして話をしていけばOEMがスムーズに進行するのかを説明します。代行会社を使っている場合も応用できます。

ケース① 家電のOEM

- パッケージの変更
- ロゴ入れ
- 説明書の変更
- 付属品の追加、もしくは変更
- 本体カラーの変更、さらにカラー指定の独占販売
- 場合によっては機能面の変更
- 認証試験の実施

OEMの優先順位を「必須」と「希望」に分ける

必須項目

- ・パッケージの変更
- ・ロゴ入れ
- ・説明書の変更
- ・本体カラーの変更
- ・第三者検品の実施

希望項目

- ・カラー指定の独占販売
- ・認証試験の実施

進行手順

1. OEMの必須項目を伝え、MOQと概算見積もりをもらう。年間の予定販売台数を聞かれることもあるので事前に試算しておくこと。
2. サンプルを請求し、質感や機能面の確認を行い、必須項目や希望項目の追加がないか整理する。
3. カラーサンプルやパッケージサンプルが市販品にあれば用意する。
4. 追加の必須項目と希望項目、不良品基準、保証規定を工場に確認する。
5. 契約を締結し、手付金を送金する。
6. OEMサンプルの制作開始
7. OEMサンプル確定後、認証試験の実施
8. 認証試験合格後、量産開始。同時にOEMサンプルを郵送してもらう（LP素材撮影用）
9. 量産完了後、第三者検品を手配し、不良品は返品。
10. 残金を支払い、商品出荷



終わり





